用語等の説明

1. 保全活動

原子力発電所の安全機能を持つ重要な機器等について、その機能を維持するために行う点検、補修等の活動のこと。

2. 原子炉施設保安規定

原子炉等規制法に基づき、原子力発電所の安全を確保するために、運転管理、保守管理、放射線管理等の項目毎に、遵守すべき内容を定めた規定のこと。

3. 腐食

使用する環境などにより、金属の表面が化学的に変化し、金属の厚さが薄くなること。（いわゆる金属が錆びる現象など）

4. 金属疲労割れ

金属にかかる圧力や温度等の変化が繰り返されることにより、金属に割れや傷が生じること。頻繁に小さな変化が繰り返される高サイクル疲労と、長い間隔で大きな変化を受ける低サイクル疲労がある。

5. 中性子照射脆化

原子炉容器は、燃料のウランが核分裂する過程で発生する「中性子」を長い年月をかけて受けつづけることにより、次第に粘り強さが低下する（脆くなる）ことが知られており、この現象を中性子照射脆化という。

6. 監視試験片

運転に伴う原子炉容器の脆化の傾向を把握するため、運転当初より原子炉の内側に設置した試験片のこと。定期的に取り出し、専門の機関で試験、分析を行い、原子炉容器の脆化の傾向や将来の状態を予測する。

7. 応力腐食割れ

金属に力が加えられた状態で、腐食する環境下に置かれた場合に、微細な傷が認められること。

8. 電気・計装品の絶縁低下

熱や放射線の影響により、電気ケーブル等の電線をカバーしているゴムなどの絶縁性能（電気を通さない性能）が低下すること。

9. コンクリートの強度低下 / 放射線遮へい能力低下

熱や放射線等の影響により、時間とともに、コンクリートの強度や放射線の遮へい能力が低下する可能性があること。

10. 超音波探傷検査

金属に超音波を当て、金属内部の傷の有無や位置、大きさを調べる検査方法。

以上